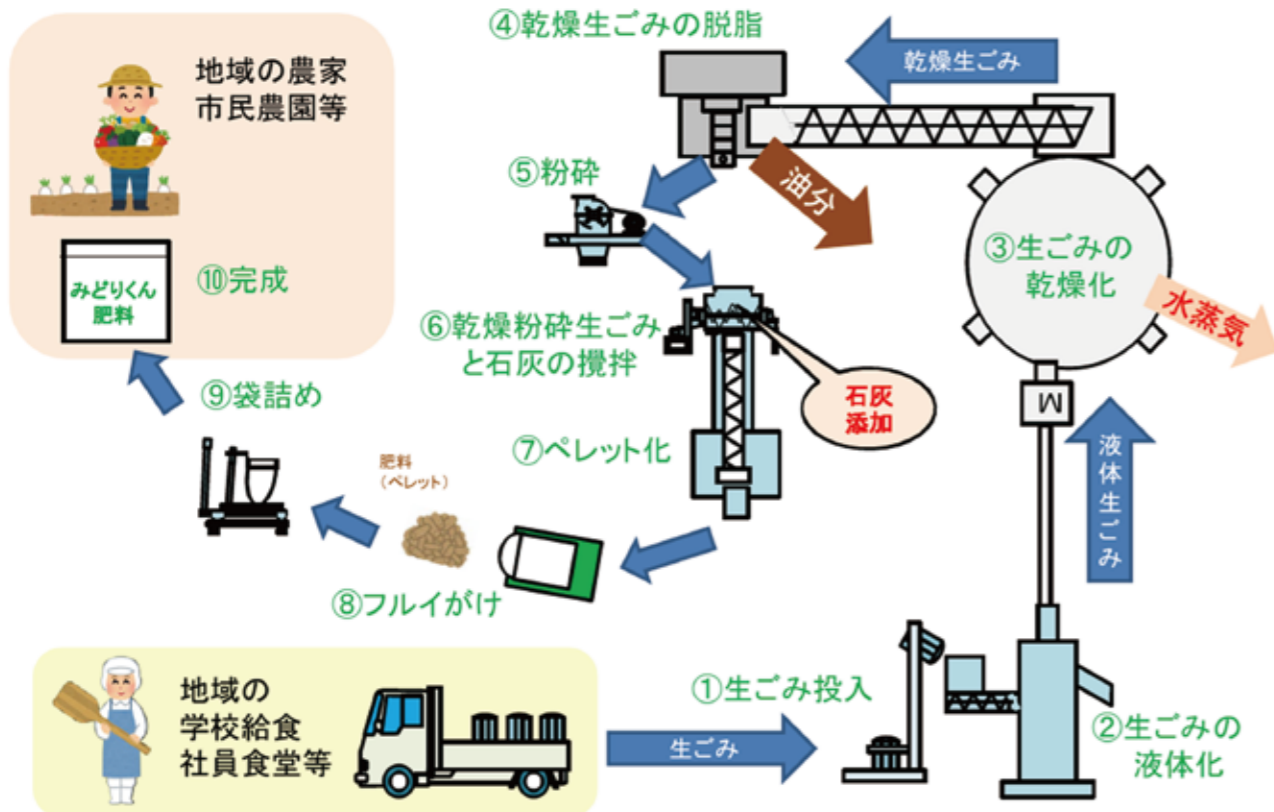


東京農大式「みどりくん」生ごみ肥料化プラント のフローチャート



「みどりくん」 生ごみ肥料化プラント オープニングセレモニー



登録証

1 登録番号	埼玉県第 705 号
2 登録年月日	令和3年 11月 4日
3 登録の有効期限	令和6年 11月 3日
4 氏名又は名称及び住所	大村商事株式会社 埼玉県志木市上宗岡二丁目18番20号
5 肥料の種類	食品残さ加工肥料
6 肥料の名称	みどりくん
7 保証成分量その他の規格	
保証成分量 (%)	その他の規格
窒素全量	2.5 公定規格のとおり
加里全量	1.0

肥料の品質の確保等に関する法律第7条の規定により、上記のとおり登録したことを証する。

令和3年 11月 4日

埼玉県知事 大野 元裕

2021(令和3)年12月1日(水)
大村商事株式会社 朝霞支社



タイムスケジュール

15:00	開会	司会:喜山 志津香氏
	主催者あいさつ	代表取締役 大村相哲
	紹介者ごあいさつ	アンナプロバイオ株式会社 研究開発室長 中日本土の会 事務局 鈴木 善仁様
	移設業者ごあいさつ	株式会社タカハタ 営業技術部 事業部長 白本 泰幸様
	みどりくんの経緯について	司会
	開発者ごあいさつ	東京農大名譽教授 全国土の会 会長 東京農大発(株)全国土の会 代表取締役 農学博士 後藤逸男様
	ご参加者ご紹介	司会
15:30	テープカット	
	プラントの説明 及び デモンストレーション	東京農業大学 客員研究員 稲垣 開生様 株式会社ビルシステム 東京農大みどりくんプラント担当 恩蔵 隆様 大村商事バイオマテリアル課 係長 藤岡 功次
	自由見学	
	閉会のごあいさつ	じゅんかんチャレンジ 桜丘推進協議会会長 大江亮一様
	閉会のごあいさつ	全国土の会副会長 兼 埼玉土の会会長 加藤 浩様
16:00	写真撮影	
	閉会・懇親会のご案内	司会

「みどりくん」生ごみ肥料化システム

～誕生から現在までの経緯～

- 1994年(平成6年)より、東京農業大学 後藤逸男名誉教授は、国内から排出される生ごみを資源として再資源化しようと「地域内物質循環社会を構築する実践的研究」を行ってきました。
- 2002年(平成14年)、後藤名誉教授は都市部での生ごみリサイクルには「堆肥化」ではなく「肥料化」が合理的との観点から、「みどりくん」生ごみ肥料化プラントを開発し、東京農業大学世田谷キャンパス内に設置されました。



東京農大式「みどりくん」生ごみ肥料化プラントの誕生から現在までの経緯 (YouTube 限定公開)

大学内の食堂残さだけでなく、世田谷区や川崎市内の学校給食、近隣のスーパーマーケット等の生ごみを回収し、1日当たり約500kgの生ごみを肥料として再資源化してきました。

本プラントは、廃棄物の再資源化だけに留まらず、畑や水田等の肥料として農業の発展、そして多くの東京農業大学学生達の研究論文等に貢献してきました。

- 2005年(平成17年)、農林水産大臣に肥料取締法(現、肥料の品質の確保等に関する法律)における、肥料公定規格改正のための申出を行い、2018(平成30年)に新規格「食品残さ加工肥料」が設定されました。
- 2019年(令和元年)、東京農業大学・キャノン電子株式会社・じゅんかんチャレンジ桜丘推進協議会との共同活動で「みどりくんプロジェクト」を立ち上げ、「都市完結型生ごみリサイクルシステム」として、グッドデザイン賞を受賞しました。

- 2021年(令和2年)1月、「みどりくん」による生ごみ肥料実用化の理念を理解し、引き継いでくれる会社を選定している中、約20年にわたり埼玉県南部の学校給食生ごみを堆肥化している大村商事株式会社が紹介され、決定いたしました。
- 2021年(令和3年)3月、東京農業大学世田谷キャンパスから大村商事株式会社朝霞支社に移設を開始し、その後各種手続きを経て11月4日、埼玉県より日本初となる「食品残さ加工肥料」みどりくんが肥料登録されました。



 **GOOD DESIGN AWARD 2019**

